

登録会員 (順不同 2011年7月現在)

日本福音同盟 (JEA)、お茶の水聖書学院 (OBI)、海外宣
教連絡協力会 (JOMA)、五宝商事、日本リバイバル同盟、
ミクタム・ミュージック・ミニストリー、CLC books、JEA
援助協力委員会、お茶の水クリスチャン・センター、ホクミン、
クリスチャン新聞、ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ)、
山崎製パン (株)、国際ナビゲーター、いのちのこば社伝
道グループ、日本福音宣教師団 (JEMA)、総動員伝道、アガ
ペー CGN、大和カルバリーチャペル、日本フォースクエア福
音教団、日本イエス・キリスト教団、キリスト者学生会 (KGK)、
玉の肌石鯨 (株)、国際開発救援財団 (FIDR)、太平洋放送
協会 (PBA)、日本国際飢餓対策機構 (JFHI)、日本臨床美
術協会、エリヤ会、日本福音教会、パーパスドリブン・フェロー
シップ、太平洋放送協会 (PBA)、ジャパン・サーバント・ミッ
ション・ブリッジ、JCFN、新生宣教団、ビリーグラハム伝
道協会、クリスチャン地震被災者状況グループ、ユーオーディ
ア、ファミリーフォーラム・ジャパン、日本チャーチ・オブ・ゴッ
ド教団、日本ペンテコステ協議会、神木イエス・キリスト教会、
日本キリスト教協議会震災対策室、新宿復興教会

- 会長** 中台孝雄
(日本長老教会西船橋キリスト教会牧師・日本福
音同盟 (JEA) 援助協力委員会委員長)
- 副会長** 榊原 寛
(ワールド・ビジョン・ジャパン理事長・お茶の
水クリスチャン・センター副理事長・東京シャロ
ームチャペル牧師)
- 事務局長** 高橋和義 (日本福音キリスト教会連合蓮田キリス
ト教会協力牧師)
- 顧問** 中島秀一
(日本イエス・キリスト教団荻窪栄光教会牧師)
村上宣道
(お茶の水クリスチャン・センター理事長)
飯島延浩 (山崎製パン (株) 代表取締役社長)
湊 晶子 (ワールドビジョンジャパン理事)

- 監事** 佐藤丈史 (五宝商事代表取締役)
- 実務委員** 中台孝雄、榊原 寛、高橋和義、片山信彦 (ワ
ールド・ビジョン・ジャパン事務局長)、三木晴男 (玉の肌石
鯨 (株) 代表取締役社長)、河成海 (ジャパンサーバントミッ
ション代表)、岡田哲夫 (いのちのこば社復興支援室
長)、品川謙一 (JEA 総主事)、根田祥一 (クリスチャン新聞
編集長)、稲垣博史 (アンテオケ宣教会事務局長)

East Japan Disaster Relief Christian Network
東日本大震災救援キリスト者連絡会

<http://drcnet.jp>

TEL

03-5577-4824

FAX

03-5577-4865

E-mail

info@drcnet.jp

事務所

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1
OCCビル#613

DRC net

被災地支援ネットワーク

支援団体

3.11いわて教会ネットワーク **岩手**

教会・教団

東北 HELP **宮城**
被災復興支援 SBS ネットワーク

諸団体

ふくしま教会復興支援ネットワーク **福島**
郡山教会復興支援ネットワーク
いわきグローバルミッション
いわきキリスト教会連合
復興支援ネットワーク

企業

NGO

ボランティアグループ

**茨城
千葉**

海外の団体

「会員登録のリストは
前ページにあります」

東日本大震災救援キリスト者連絡会

東日本大震災救援

キリスト者連絡会

East Japan Disaster Relief Christian Network

DRCnet



光はやみの中に輝いている。
やみはこれに打ち勝たなかった。
ヨハネの福音書 1:5

<http://drcnet.jp>



東日本大震災救援キリスト者連絡会 趣意書(案)

このときこそキリスト教会が一致して

3月11日に発生した東日本大震災は、地震に伴う大津波、さらには福島第一原子力発電所事故などにより、未曾有の大惨事をもたらしました。震災後即座にさまざまな機関が支援のために活動を始め、キリスト教主義のNGO、NPO等の諸団体や教会関係の機関も活動を開始しました。そのような中、“プロテスタント宣教150周年にあたり、NCC、福音派、聖霊派と呼ばれる諸教派諸教団がひとつに集まり記念の集会が開かれたように、東日本大震災によって被災した方々の救援のために今こそ教派を超えて一致して取り組むべきではないか”との声が上がリ、急遽、3月18日に会合を開きました。そこに集まったのは、日本福音同盟関係者、キリスト教主義NGO関係者、一般企業経営者、お茶の水クリスチャンセンター関係者、その他の者たちでした。

「東日本大震災救援キリスト者連絡会」結成

3月18日の会合で、教団教派そして諸団体によるそれぞれの救援活動への期待とともに、キリスト教界が協力し合ってこそできることに一致して取り組むべきではないか、という思いに至りました。そして第2回の会合を翌週の25日に開き、『東日本大震災救援キリスト者連絡会』(以下「救援連絡会」)が結成され、救援連絡会の目的や事業・役割について確認しました。

42の機関が連携

現在、42の伝道団体、NGO、NPO、教団、機関等が会員として登録し、救援連絡会を構成しています。当初の願いの通り、いわゆる福音派、聖霊派、さらにNCC関係の機関も加わり、かつて日本のプロテスタント教会にはなかった大きな規模で支援に取り組む体制ができつつあります。これは、神様の深い摂理のもとにあると確信しています。

活動の原則

東日本大震災の被災者のための救援活動は、キリスト者としての愛のわざの実践であり、直接の伝道を目的とはしていません。主からの愛に満たされ、被災した方々に寄り添い仕える姿を通して、キリストを証しし、人々との信頼関係を深くしていきます。このような姿勢で、被災地の教会と救援連絡会とが協力し合って、被災地の救援活動に取り組むことにより、伝道への門戸が開かれていくことと信じます。

活動目的

救援連絡会の目的は、神様の導きと助けの中で東日本大震災、津波、福島第一原子力発電所事故による被災者を救援し、キリスト教会、キリスト教系諸団体、救援活動諸団体、企業等の救援復興活動の連絡調整を行い、日本の教会全体並びに現地の教会が被災者を救援し福音を証するために祈り支援することです。

救援連絡会が取り組むべきこと救援連絡会の主な事業活動は、以下の三点です。

- ① 教会および諸団体の現地での救援活動状況やニーズなどの情報をつなぐためのハブ的役割をウェブサイト上で行う。
- ② 被災した地域の教会によって立ち上げられる支援ネットワークを支援する。
- ③ 被災した教会や被災した地域の教会による周辺のコミュニティーの人々への救援活動を支援する。

取り組みの姿勢

上記の内容を基本として、規約が作成され、以下の項目について具体的に取り組みつつあります。

- ① 救援連絡会だからこそ、やれることは何かを見出し、実施に努める。
- ② 救援団体や地域に立ち上げられた支援ネットワークが求めているもの、もしくは、必要とされているもので、救援連絡会ができることは何かを受け止め、それらを実施する。

- ③ 表に出て来ないで、忘れられたり、置き去りにされたりする危険性のある教会に対する支援を行う。
- ④ 支援金がささげられる場合は、支援活動に有効に用いる。
- ⑤ 国や行政で行われることはお任せする。(ただし、救援連絡会には、山崎製パン(株)のように国や行政の委託を受けていち早く被災地に物資を届ける任務を果たしている機関も連なっている。)
- ⑥ 救援団体や教団で行われていることはお任せするが、要請に応じてハブ的役割を果たす。
- ⑦ 一過性と見られる支援ではなく、中・長期にできる支援は何かを探り実施する。

運営は実務委員会と救援連絡会全体会で

毎週行われる実務委員会では、具体的な検討が行われ、隔週に開かれる全体会では、登録会員の代表者が集まり、情報を交換し、合意を得ながら、救援に取り組んでいます。

お祈りとご支援を

被災地では、被災した教会や支援ネットワークの働きと支援活動によって、被災地の人々の心は少しずつ癒され、復興に一步を踏み出しています。しかし、福島第一原子力発電所事故のために被災した方々をはじめ、まだまだ先が見えない状況でもあります。

今後、救援連絡会と本会に連なるすべての支援機関は、全力を尽くして支援活動に取り組んでまいります。そのためにも活動費や、スタッフの給与などの諸経費のための資金も必要です。ぜひ、この必要が満たされるようお祈り、ご協力いただければ幸いです。

あなたの上に祝福を祈りつつ、あなたの祈りと支援をますます期待申し上げます。

活動支援献金送付先：

三井住友銀行千代田営業部 普通 2117746
東日本大震災救援キリスト者連絡会 会長 中台孝雄